

御国の福音

第2回：御国とアブラハム契約（創世記 12～50 章）¹

目次

はじめに p. 2

I. アブラハム契約の付与（創世記 12:1-3） p. 3

A. アブラハム契約について

II. 「リトマス試験紙」としてのイスラエル p. 5

A. 創世記 1-11 章の内容とアブラハム契約の関係

B. 「リトマス試験紙」としてのイスラエル

III. 王国と土地 p. 6

A. 人と「地」の関係

B. アブラハム契約における「地」

C. イスラエルと「地」の関係

IV. 王国とユダ族（創世記 17:6；49:8-10） p. 8

A. アブラハム契約における「王」の存在

B. ユダ族から王が出るという約束

C. 「シロ」とは何か？

D. ユダ族から出る王による統治の特徴

創世記 12-50 章における王国の計画のまとめ p. 13

はじめに

A. 前回の復習

1. 「神の御国／王国」(the kingdom of God) の計画について学んでいる。
 - (1) 御国の計画は、聖書を貫く軸である。
 2. 創世記 1-11 章は、地球全体に関する幅広い事柄を扱っていた。
 - (1) 王である神は素晴らしい世界を創造された。
 - (2) 神はご自身の子として、またご自身の代わりに世界を治める王として人を創造された。しかし、人は罪を犯し、それによって人が治めるべき被造世界は呪われた。
 - (3) 神は洪水によって人を裁き、ノアを第二のアダムとして据えた。ノアは世界中に増え広がることを命じられていたが、彼の子孫はその命令に逆らい、一箇所に留まって神に反抗した。
 - (4) 神は人を裁かれた(バベルの塔事件)。彼らの言語を混乱させることで、強制的に人を世界中に散らされた。これは裁きであったが、人を世界中に置くための神のご計画でもあった。
 - (5) 以上のことから、人の罪の問題は大変大きいことがわかった。
 3. 今回の内容について
 - (1) 創世記 12 章では、人に対する救いの計画が進展していく。また、アブラハムとその子孫が、御国の計画の中心的存在となる。
 - (2) アブラハム契約の中で、創世記 3:15 で預言されていた「女の子孫」がアブラハム、イサク、ヤコブの子孫であることが明らかになる。
 - (3) アブラハム契約の中で、アブラハム、イサク、ヤコブを通じて諸国民が祝福されるという神のご計画が明らかになる。

I. アブラハム契約の付与

A. アブラハム契約について

1. アブラハム契約は「旧新約聖書を貫く大原則」であり²、ここで約束されていることこそが、「出エジプト記からヨハネの黙示録に表れるパターンを規定している」³。

2. 創世記 12:1-3

¹【主】はアブラムに言われた。

「あなたは、あなたの土地、
あなたの親族、あなたの父の家を離れて、
わたしが示す地へ行きなさい。

²そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、
あなたを祝福し、
あなたの名を大いなるものとする。

あなたは祝福となりなさい。

³わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、
あなたを呪う者をのろう。
地のすべての部族は、
あなたによって祝福される。」

- (1) アブラハム契約の詳細な内容は創世記の中で徐々に明らかにされていくが、本契約の基盤となる聖句は創世記 12:1-3 である。
- (2) 神はアブラハム（当時はアブラム）に、故郷を離れてご自身が指し示す地へ行くようにと命じられた。アブラハムはこれに応えたことで、神の契約におけるパートナーとなった（12:1）。
- (3) 神はアブラハムと、無条件の祝福をお与えになるという内容の契約を結ばれた（12:2-3）⁴。

3. アブラハム契約の祝福に与る者たち

(1) アブラハム個人

2 節：「あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。」

(2) アブラハムから出る「大いなる国民」（イスラエル）

2 節：「わたしはあなたを大いなる国民とし、」

(3) 「地のすべての部族」（異邦人諸国）

3 節：「地の全ての部族は、あなたによって祝福される。」

4. アブラハム～イスラエルの選びと異邦人の祝福

(1) 神が、アブラハムと彼から出る「大いなる国民」（イスラエル）が選ばれた目的は、世界中を祝福するためである。

(2) イスラエルの使命は、異邦人諸国を祝福することである。

a) 創世記 18:18「アブラハムは必ず、強く大いなる国民となり、地のすべての国民は彼によって祝福される。」

b) 創世記 22:18「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」

c) 創世記 26:4「そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与える。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。」

d) 創世記 28:14「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。」

(3) このことを理解することで、2つの誤りを正すことができる。

a) 第1の誤り：アブラハム契約の祝福はイスラエルのためだけのものである。

b) 第2の誤り：異邦人はアブラハム契約の祝福に与った結果、イスラエルに組み込まれる。

II. 「リトマス試験紙」としてのイスラエル

A. 創世記 1-11 章の内容とアブラハム契約の関係

1. 創世記 1:26-28

²⁶神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」²⁷神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。²⁸神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

(1) 人の役割その 1：子孫を地に満たすこと

(2) 人の役割その 2：被造世界を治めること

2. 創世記 1:26-28 とイスラエルの役割

(1) アブラハムの子孫から「大いなる国民」（イスラエル）が出る。

(2) その国民は「空の星、海辺の砂のように」、また「地のちりのように」大いに増える（創 15:5；22:17；26:4；28:14）。

→「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」

(3) その国民の中から、諸国民や被造世界を治める王が出る（創 49:10）。

→「地を従えよ。」「地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

(4) 大いなる国民（イスラエル）は、創世記 1:26-28 が成就するためのモデルとして用いられる。

B. 「リトマス試験紙」としてのイスラエル

1. イスラエルは神と人の関係を映し出す「リトマス試験紙」のようなものである。
 - (1) アブラハム、イサク、ヤコブとその子孫（イスラエル）は、神と異邦人諸国の間を取り持つ「祭司」的役割のために選び出された。
 - (2) 祭司は、神と人の間に立つ、人間側の代表である（ヘブ 5:1 参照）。
 - (3) 祭司的国民であるイスラエルは、神が諸国民をどのように扱われるかを示す「モデル」あるいは「テンプレート」のような役割を果たす。
 - (4) 神とイスラエルの間に起こることは、神と諸国民の間でも起こる。
（ちなみに、私たちが旧約聖書を読むべき理由のひとつはここにある。）
 - (5) 神はイスラエルを霊的・物質的に祝福される。
→神は異邦人諸国をも霊的・物質的に祝福される。

III. 王国と土地

A. 人と「地」の関係

1. 人（*adam*）は土（*adama*）のちりから創られた（創 2:7）。
2. 人は全地、特にエデンの園を治めるよう命じられた（創 1:28；2:15）。

B. アブラハム契約と「地」の関係

1. 土地の約束
 - (1) アダムとアブラハムの対比
 - a) アダムは神に逆らい、治めるよう命じられた土地から追放された（創 3:23-24）。
 - b) アブラハムは神に従い、約束の「地」に入った（創 12:4-5）。そして、土地の約束を得た。

(2) 土地の約束：創世記 12:6-7a

アブラムはその地を通過して、シェケムの場所、モレの櫛の木のところまで行った。当時、その地にはカナン人がいた。主はアブラムに現れて言われた。「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」

(3) アブラハムは神の約束を信じ、その「地」に住み着いた（創 13:12）。その結果、神は再び土地の約束を与えられた。

¹⁴ ロトがアブラムから別れて行った後、主はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいるその場所から北、南、東、西を見渡しなさい。¹⁵ わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与えるからだ。¹⁶ わたしは、あなたの子孫を地のちりのように増やす。もし人が、地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えることができる。¹⁷ 立って、この地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに与えるのだから。」（創 13:14-17）

(4) この約束は具体的な、文字通りの土地に関するものである。約束の地の範囲は「エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで」である（創 15:18）。

(5) 土地の約束は、イスラエルの不信仰によって取り消されるものではない。

ただ『イスラエルの子らを、北の地から、彼らが散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。（エレ 16:15）

C. イスラエルと「地」の関係

1. 「地」に関するリトマス試験紙

- (1) 再確認：イスラエルは神と人との関係を映し出す「リトマス試験紙」のようなものである。→神とイスラエルの間に起こることは、神と諸国民の間にも起こる。

- (2) アブラハム契約から見える「イスラエル→祝福→諸国民」という流れ
- a) イスラエルはアブラハム契約に基づき、土地が与えられ、その土地を治めるようになる。
 - b) イスラエルを通して諸国民が霊的・物質的に祝福される。
 - c) その結果、諸国民もまた神に立ち返り、それぞれに割り当てられた土地を治めるようになる。
- (3) これによって、人類が「地」を治めるという創世記 1:26-28 の内容が成就する。
(この御国の計画のプログラムは、詳しくは今後学んでいく。)

2. イスラエルと「地」の関係

- (1) イスラエルに土地が与えられたことが重要なら、その土地自体も重要な役割を果たす。
- a) 「女の子孫」であるイエス・キリストはイスラエルの地でお生まれになった。
 - b) イエス・キリストの贖いの業（十字架での死）はイスラエルの地で起きた。
 - c) イエス・キリストの復活はイスラエルの地で起きた。
 - d) イエス・キリストの昇天はイスラエルの地で起きた。
 - e) イエス・キリストは再臨され、イスラエルから全世界を治められる（詩 2:5-8；イザ 2:2-4；ゼカ 14 章）。
- (2) イスラエルの地は、イスラエルを通じた全世界の祝福という御国の計画が実行されるための「作戦基地」となる。

V. 王国とユダ族（創世記 17:6；49:8-10）

A. アブラハム契約における「王」の存在

1. 御国の計画とアブラハム契約のもうひとつの関係：「王」
- (1) アブラハムの子孫からは「王たち」が出ることが約束されている（創 17:6）。
 - (2) 子孫から「王たち」が出ることはヤコブにも約束されている。

神はまた、彼 [ヤコブ] に仰せられた。「わたしは全能の神である。生めよ。増えよ。一つの国民が、国民の群れが、あなたから出る。王たちがあなたの腰から生まれ出る。（創 35:11）

- (3) 創世記の著者（モーセ）は、ヤコブから王が出るという約束を書いた直後に、ヤコブの兄弟であるエサウから実際に王たちが出たことを記録している。

イスラエルの子らを王が治める以前、エドムの地で王として治めた者は次のとおりである。（創 36:31）

- (4) アブラハムの孫・エサウの子孫から王たちが生まれ出たことは、同じアブラハムの孫・ヤコブからも王たちが出るという約束の成就を、読者に期待させる。これは、イスラエルを治める王が出るという約束の成就の前味である。

2. 創世記の神学的クライマックスは「王の約束」である。

- (1) 創世記のクライマックス（37-50章）は、ヤコブの12人の息子たちの物語である。
- (2) ヤコブの息子たちの物語の神学的なクライマックスは、息子たちの将来について預言したヤコブの遺言（49章）である。
- (3) ヤコブの遺言で最も強調されているのは、ユダ族から出る王に関する預言である（49:8-12）。
- (4) したがって、創世記の神学的クライマックスは、イスラエル12部族のうちユダ族から出るという王に関する預言である。
- (5) したがって、ユダ族から出る王に関する預言は、御国の計画において非常に重要である。

B. ユダ族から王が出るという約束

1. ヤコブの遺言

- (1) ヤコブの遺言は、イスラエルの全 12 部族に宛てられたものである (49:28)。
- (2) ヤコブの遺言は、「終わりの日」に関するものである (49:1)。
- (3) ヤコブの遺言は、イスラエルの 12 部族に関する終末論的預言を含んでいる。

2. ユダ族への預言

- (1) 49:8

ユダよ、兄弟たちはおまえをたたえる。おまえの手は敵の首の上であり、おまえの父の子らはおまえを伏し拝む。

- a) ユダは 12 部族の中で最も秀でた者になる。
- b) ユダは自らの敵を支配するようになる。
- c) ユダは 12 部族の中でリーダー的な役割を担うようになる。

参考) これは歴史的に成就したし、終末論的にも成就する。

なお、歴史的成就の例は以下の通り⁵。

- ・ ユダは荒野において最も大きい部族となった (民 26:20-22)。
- ・ ユダは荒野においてイスラエルの軍勢を率いた (民 10:14)。
- ・ モーセは、カナンの地征服の戦いにおけるユダの祝福を祈った (申 33:7)。
- ・ 部族ごとのカナンの地の割当に関する記事で、最初に取り上げられているのはユダ族である (ヨシ 15:1)。
- ・ ヨシュアの死後、カナン人との戦いで先陣を切るよう命じられたのはユダであった (士 1:2-4)。
- ・ イスラエルの全部族を治めたダビデは、ユダ族に属していた (II サム 5:1-5)。

(2) 49:9

ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。

- a) ユダの性質は「獅子」のようになると表現されている。
- b) 「獅子」は王位を象徴する言葉である。
- c) イエス・キリストは「ユダ族から出た獅子」と呼ばれている（黙 5:5）。

(3) 49:10

王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。

- a) ユダ族は王を輩出する部族となる。
- b) 「シロ」が中心的な言葉である（シロについては後に学ぶ）。
- c) 「王笏」と訳されている言葉は、兵士が持つ棍棒も意味する言葉である。
- d) ユダ族から出る王は、戦いに勝利する戦士的な王でもある。
- e) 「王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない」という表現は、ユダ族から出る王の権威と勝利を強調している。

C. 「シロ」とは何か？

1. 訳文の比較

(1) 新改訳 2017

「ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。」

(2) 新共同訳

「ついにシロが来て、諸国の民は彼に従う。」

(3) English Standard Version

「(王権は……離れない。) 彼がそれ [王権や王笏] を身に帯びるまで。そして、諸国の民は彼に従う。」

- (4) フルクテンバウムによる直訳（古代ギリシャ語訳（七十人訳）および古代シリア語訳をふまえて）⁶

「(王権は……離れない。) しかし、それは権威を身に帯びた者が来るまでのことである。諸国の民はその方に従う。」

2. 訳文比較の結果

- (1) 「シロ」を固有名詞と訳すか、所有代名詞（所有物を表す代名詞）と訳すかで議論が分かれている。おそらく適切なのは、所有代名詞として訳すことである⁷。
- (2) 「シロ」を所有代名詞として訳すなら、この言葉は文脈上、ユダ族から出る王は王としての権威と戦士としての勝利を身に帯びていることを強調している⁸。

参考) なお、「シロ」を所有代名詞として直訳すると、ESVのように「彼がそれを身に帯びるまで」となり、ここで王の支配はストップしてしまうように読める。しかし、実際にはその後で「諸国の民はその方に従う」と言われており、王の支配は続いている。

日本語で「まで」というと、その前に書かれている過去の行動はそこで終わってしまうように読める。しかし、「まで」と訳されているヘブル語 *ki* は、過去の行動が継続していく様も意味する言葉である⁹。

D. ユダ族から出る王による統治の特徴

1. 王の統治は異邦人にまで広がる。

- (1) 権威と勝利を帯びた王の支配は、「諸国の民」にまで及ぶ。
- (2) 創世記には、神の御国の計画のエッセンスが詰め込まれている。
- 神は人を通して被造世界を治められる。
 - 神はイスラエルを通して全世界を祝福される。
 - 全世界の祝福は、イスラエルの中、特にユダ族から出る王によって実現する。
 - その結果、人を通じた全世界の統治が実現する。
 - これは、イエス・キリストによって成就する。

2. 王の統治には豊かな物質的祝福が伴う。

(1) 創世記 49:11-12

¹¹彼 [ユダ族から出る王] は自分のろばをぶどうの木に、雌ろばの子を良いぶどうの木につなぐ。彼は自分の衣をぶどう酒で、衣服をぶどうの汁で洗う。¹²目はぶどう酒よりも色濃く、歯は乳よりも白い。

- a) 通常、ろばをぶどうの木に繋ぐと、ぶどうが無駄になってしまう（食べられてしまうか踏みつけられてしまう）ため、そのようなことはしない。
- b) しかし、この王が統治する時には、無駄になることを心配せずにろばを繋いでおけるほどに「良いぶどうの木」が豊富にある。
- c) また、「目はぶどう酒よりも色濃く、歯は乳よりも白い」という表現は、ぶどう酒や乳製品の豊富さを表していると思われる。

(2) 来たる王の下では、非常に豊かな物質的祝福がある。これは、エデンの園の回復のようである。

(3) ユダ族から出る王の下で被造世界が回復することもまた、メシア的王国（千年王国）で成就する。

創世記 12-50 章における御国の計画のまとめ

- 1. 神の御国の計画では、アブラハムと彼から出る大いなる国民（イスラエル）が中心となっていく。
- 2. イスラエルに起こること、そして約束の地で起こることは、他の諸国民にも起こることのモデルとなる。
- 3. ヤコブの息子であるユダの子孫は、王を輩出する家系となる。そして、その家系から究極的な王（イエス・キリスト）が生まれる。
- 4. ユダ族から出る王は異邦人諸国を支配し、また物質的祝福をもたらす。

¹ 本講義は以下のテキストに基づく。Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017), 81–91.

² 中川健一『日本人に贈る聖書ものがたり 族長たちの巻』(文芸社、2003年) 92頁。

³ Keith Essex, “The Abrahamic Covenant,” *The Master’s Seminary Journal* 10/2 (Fall 1999): 212.

⁴ 創 12:1 からは、アブラハム契約にもある種の条件性が含まれていることがわかる。しかし、12:2 以降本契約の枠組みの中で与えられる祝福は、基本的には神が一方的にお与えになる無条件の祝福である。したがって、本契約は「無条件契約」と呼ばれる。さらに本契約については、古代中近東に見られた、王が民に授与する形の契約や約束 (the covenant of grant) の形式と、内容や言葉遣いが類似していることが指摘されている (M. Weinfeld, “The Covenant of Grant in the Old Testament and in the Ancient Near East,” *Journal of the American Oriental Society* 90/2 [Apr.–Jun. 1970]: 184–203)。そのような点から考えても、アブラハム契約を「無条件契約」あるいは「片務契約」と呼ぶことは妥当であると考えられる。

⁵ ユダ族の優位性に関する歴史的成就のリストは、以下に基づく。Herbert W. Bateman IV, Darrell L. Bock, and Gordon H. Johnston, *Jesus the Messiah: Tracing the Promises, Expectations, and Coming of Israel’s King* (Grand Rapids, MI: Kregel, 2012), 43–44.

⁶ アーノルド・フルクテンバウム『メシア的キリスト論-旧約聖書のメシア預言で読み解くイエスの生涯-』佐野剛史訳 (ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、2016年) 12頁。

⁷ Kenneth A. Mathews, *Genesis 11:27–50:26*, *New American Commentary* (Nashville, TN: B&H, 2005), 894–95; Bateman, Bock and Johnston, 46; フルクテンバウム、12–13頁。

⁸ Mathews, 895–96; Bateman, Bock and Johnston, 46–47.

⁹ Mathews, 895.